

6-2 路線バスの新規導入や再編

路線バスの新規導入や再編を検討する場合、必要に応じて以下の分析を行うことが考えられる。

- (1)路線バスサービスレベルの現状把握
- (2)通勤・通学流動の把握
- (3)路線バスの利用時間帯別構成比の把握
- (4)路線バスの潜在需要の把握

(1) 路線バスサービスレベルの現状把握

①分析の視点

現状の路線バスのサービスレベルを分析することで、路線バスサービスが行き届いていない地域（路線バス空白地域）を把握する。人口や交通需要が多いにも関わらず、路線バスサービスが行き届いていない地域は、路線バス導入による潜在需要が期待される。

②方法

現状の路線バスのサービスレベルを把握する。地図上に図示したサービスレベルと人口分布を比較することで、公共交通のサービスレベルが不足している地域を明らかにする。

③分析に必要なデータ

- 路線バスの路線網図
- バス停間の運行本数
- 人口データ（国勢調査等）



図 6-4 バス路線網と公共交通空白地域(イメージ図)

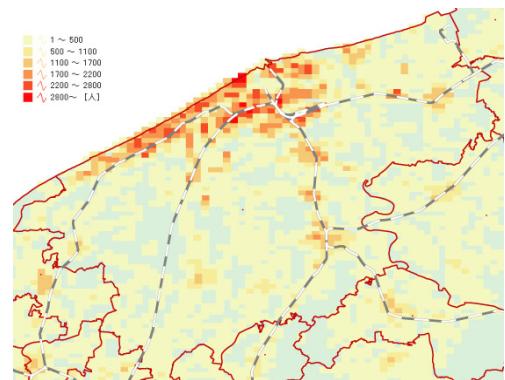


図 6-5 夜間人口の変化(イメージ図)

(2) 通勤・通学流動の把握

①分析の視点

通勤・通学時の地域間移動者数を把握する。通勤・通学の移動が多い地域間は、路線バスを利用する潜在需要が多いと想定される。

②方法

市町村別に居住者の従業地または通学地を集計することで、市町別通勤・通学流動を算出する。

③分析に必要なデータ

- 国勢調査

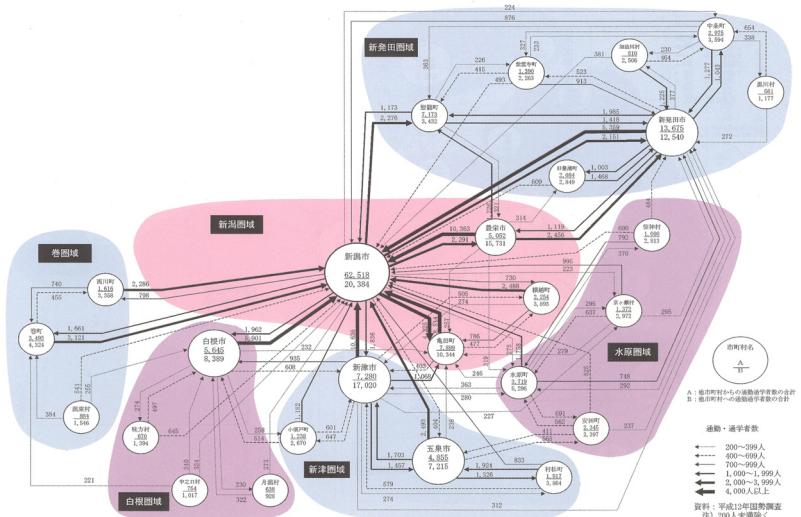


図 6-6 通勤・通学流動(イメージ図)

(3) 路線バスの利用時間帯別構成比の把握

①分析の視点

路線バスの時間帯別構成比を算出し、路線バス需要が多い時間帯と少ない時間帯を把握する。本分析は、路線バス運行ダイヤを検討する際の参考データとなる。

②方法

路線バスを利用しているトリップを対象に、ゾーン別や方面別の発時刻別および着時刻別にトリップを集計し、構成比を算出する。

③分析に必要なデータ

- 都市圏 P T 調査

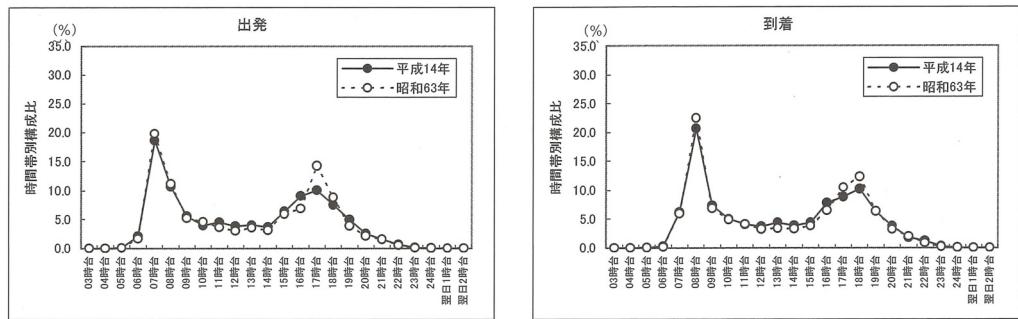


図 6-7 バスの時間帯別構成比(イメージ図)

(4) 路線バスの潜在需要の把握

①分析の視点

路線バスに転換する可能性の高いトリップを、路線バスの潜在需要として把握する。

例えば、徒歩・自転車・バイクが20分以上のトリップ、65歳以上および18歳未満の自動車同乗トリップ、75歳以上自動車送迎トリップなどが考えられる。

潜在需要の高い地域は、路線バス導入の実現性が高い地域であると想定される。

②方法

ゾーン間所要時間別代表交通手段別トリップ数を集計し、徒歩・自転車・バイク利用の所要時間が20分以上のトリップを算出する。また、自動車利用トリップにおける年齢階層別運転の有無別トリップ数を集計することで、65歳以上および18歳未満の自動車同乗トリップ、75歳以上自動車運転トリップを算出する。

③分析に必要なデータ

- 都市圏P T調査
- 特定目的P T調査（特定地域限定型、全域小サンプル型）

